

アナ・ヴィドヴィチ  
ギターリサイタル

# Ana Vidovic

Guitar Recital

2006 11 / 23 (木)

開場：午後 6 時 開演：午後 7 時

会場



うるま市民芸術劇場 韶ホール

【お問い合わせ】うるま市民芸術劇場 TEL (098) 973-4400

## プログラム

バッハ／バルエコ編曲：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第1章 BWV.1001

I . Adagio

II . Fuga

III . Siciliana

IV . Presto

ポンセ : 南国風のソナティナ

I . Campo

II . Copla

III . Fiesta

タレガ : アルハンブラの想い出

休憩

ウォルトン : 5つのバガテル

I . Allegro

II . Lento

III . Alla Cubana

IV . Sempre Espressivo

V . Con Slancio

バリオス : 大聖堂

I . Preludio Saudade

II . Andante Religioso

III . Allegro Solemne

ピアソラ : ブエノスアイレスの夏

天使のミロンガ

天使の死

ブエノスアイレスの春

## 曲目解説

### ■ J. S. バッハ / バルエコ編曲：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第1番. BWV. 1001

J. S. バッハ（1685～1750）のケーテン時代（1717～23年）は、自ら「わが生涯の最良の時代」と言うほどバッハにとって充実した時代であり、多数の器楽作品、室内楽作品の傑作が生み出された。1720年にケーテンで最終稿が成立した「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」もその一つで、バッハ音楽の神髄を示す作品として高く評価され、現在でも広く親しまれている。本日演奏されるのは、第1番をマヌエル・バルエコが編曲したもの。第1楽章アダージョは、わずか22小節であるが、前奏曲風の性格を持ち真摯で厚みのある音楽である。第2楽章フーガは多彩な変化をもった3声のフーガがアレグロで堂々と展開される。またこのフーガは、オルガン用（BWV. 539）およびリュート用（BWV. 1000）の稿でも知られている。第3楽章シチリアーナはこれまでの緊張をほぐすような牧歌的で温かい音楽。第4楽章プレストはジーグ風のリズムを基にして快活に華麗に走り抜ける。マヌエル・バルエコ（1952～）はキューバに生まれ、街にあふれるキューバとラテン・アメリカの音楽に囲まれて育った。その後アメリカに移住してからはピーポディ音楽院で研鑽を積み、現在は同校で教鞭も執っている。これまでに小澤征爾、ケント・ナガノなど数多くの著名指揮者と共に演じるほか、数多くのCDもリリースしている。またギター音楽のレパートリー拡大にも意欲的で、武満徹、ロベルト・シェラ、スティーブン・スターら現代の作曲家とのコラボレーションも多い。アメリカでは人気テレビ番組のゲストに招待されるほか、CM出演などその人気と実力はゆるぎない。

### ■ポンセ：南国風のソナティナ

マニエル・マリア・ポンセ（1882～1948）は「近代メキシコ音楽の父」と呼ばれていて、近代フランス音楽の影響を強く受けた自己の作風を確立した。特にギター音楽にその特色が發揮されている。この曲は、ポンセの作品でも名高い作品の一つ。「南国」がこの曲の中ではスペインを指すことは曲調から伺われる。第1楽章C a m p o（田園）、第2楽章C o p l a（歌）、第3楽章F i e s t a（祭り）から成り、第3楽章はアビラ地方の民謡から取ったもの。

### ■タレガ：アルハンブラの想い出

近代ギター音楽の頂点を築いたフランシスコ・タレガ（1852～1909）は、作曲と演奏の両面に自己の天分を見出しその作品は400曲にのぼる。中でもこの曲は友人アルフレッド・コティンに捧げられた傑作でギター音楽の重要なレパートリーとなっている。4分の3拍子のトレモロに終始しており、タレガはギターにより美しい旋律と音色を与るためにこの奏法を用いた。トレモロ奏法を用いた作品はこのほかにもいくつかあるが内容的にもその比ではない、名宮アルハンブラによせる若き日の思い出を物語り、作曲者が自己の内奥を深く掘り下げた高い音楽的境地を示しており、まさにギターより生まれた名曲である。

### ■ウォルトン：5つのバガテル

ウィリアム・ウォルトン（1902～83）はイギリスのオールドハムに生まれた。ロマンティックな傾向の中に新鮮なハーモニーとリズムを加え、大衆的な要素も持ち、ブリテンと並ぶ20世紀イギリスを代表する作曲家であり本場イギリスではクラシック・ファンに限らず幅広い層から支持を受ける国民的作曲家として名を残している。この曲はウォルトンの初のギター独奏曲。ウォルトンと親しい関係にあったマルコム・アーノルドのすすめで1971年に作曲したもの。第3章はキューバのリズムに乗っ取って書かれており、ウォルトンの初期作品「ファサード」を彷彿とさせるような明るさがある。全部で5章からなり、ウォルトンらしい充実した香りを持つ。

### ■バリオス：大聖堂

繊細で美しい旋律と超絶技巧で「ギターのショパン」「ギターのバガニーニ」などと称された、南米巴拉グアイ生まれのアグスティン・バリオス＝マンゴレ（1885～1944）の最も人気の高い作品。1921年36歳のとき訪れたウルグアイの首都モンテビデオの大聖堂で聴いたオルガンの響きに感動し作曲したと伝えられるが、第1曲：前奏曲（郷愁）、第2曲：宗教的アンダンテ、第3曲：壮大なアレグロの3部作のうち、第1曲：前奏曲は1938年キューバにいた53歳のとき、ハバナの大聖堂で胸に去来した望郷の気持ちから着想し後から追加作曲したもの。

### ■ピアソラ：ブエノスアイレスの夏 / 天使のミロンガ / 天使の死 / ブエノスアイレスの春

タンゴの革命児アストル・ピアソラ（1921～92）はアルゼンチン生まれのバンドネオン奏者。1946年に自身の楽団を結成し作曲者、編曲者、演奏家として60年代半ばにはモダン・タンゴ界での地位を確立。日本でも映画やTVCのBGMで広く知られるようになり、アルゼンチンタンゴ、クラシック、ジャズが融合した甘美で悲哀に満ちた音楽は高い人気を得ている。代表作のひとつ「ブエノスアイレスの四季」は四季をテーマに、それぞれ強烈な個性を放つ4つの曲を総称したもので、本日はその中より「夏」と「春」が演奏される。ピアソラの音楽に触発された劇作家アルベルト・ロドリゲス・ムニヨスは1962年に舞台作品「天使のタンゴ」を書き、その音楽をピアソラに依頼。。「天使へのイントロダクション」「天使の死」「天使のミロンガ」「天使の復活」の4つの曲を提供した。「天使へのイントロダクション」を除き、これらは以後ピアソラの重要なレパートリーとなった。本日は特に有名な「天使の死」「天使のミロンガ」が演奏される。

■プロフィール

# Ana Vidovic

アナ・ヴィドヴィチ

1980年クロアチア生まれ。

5歳からギターを学び始め、7歳で初めての演奏会、11歳で外国へ演奏旅行、13歳のときザグレブ・ソロイス国立音楽院に史上最年少で入学を果たすなど、早くから天才

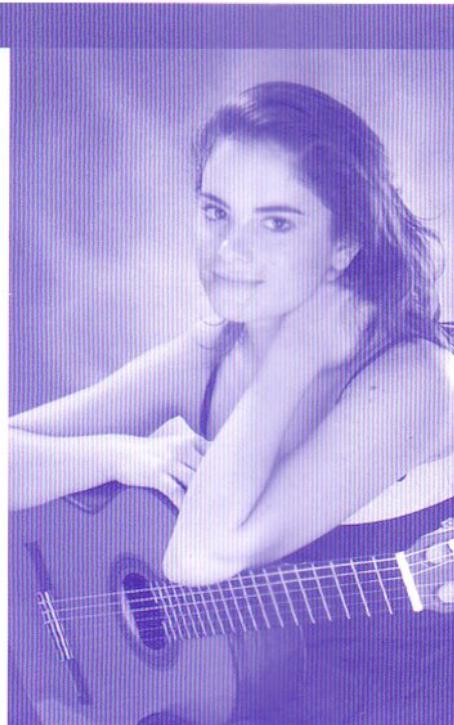
少女として注目を集め、ザグレブ・ソロイスツ、ザグレブ・フィル、クロアチア放送交響楽団との共演や数々のリサイタル、5枚のCDを次々リリースするなど活発な活動を展開、著名なクロアチアの映画監督ペーター・クレリヤによる3本のテレビ・ドキュメンタリーも制作されている。

イギリスのアルバート・アウグスティーン国際コンクール（1995年）、ローマのフェルディナンド・ソル国際コンクール（1997年）、スペインのフランシスコ・タレガ国際コンクール（1998年）等の著名な国際コンクールで優勝するなど数々の輝かしい受賞歴を誇る。

これまで、ロンドン、パリ、ウィーン、ザルツブルク、ローマ、ブタペスト、ワルシャワ、テルアヴィブ、オスロ、コペンハーゲン、トロント、ボルチモア、ヒューストン、サンフランシスコ、オースティン、ダラス、セントルイスなど、すでに世界20カ国以上でコンサートを行っている。

2004年には初めての来日公演を行い”満員の聴衆はその卓越した演奏技術と音楽性に感嘆し…（現代ギター）”と絶賛され、演奏会の模様はNHK-BSにより収録、放送された。

2003年まで米ボルチモアのピーボディ音楽院でマヌエル・バルエコの指導のもと研鑽を積み、現在もボルチモアを拠点に活動している。



【主催】うるま市教育委員会、沖縄ギター芸術協会

【後援】うるま市文化協会、沖縄タイムス社、琉球新報社、FM おきなわ

制作：うるま市芸術振興課（担当／知念瞳）